

社会科学学習指導案

I 単 元 日本の歴史－武士の世の中の始まり－

II 考 察

1 教材観

(1) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

(1) 国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めるようにするとともに、我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情を育てるようにする。

ウ 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて調べ、武士による政治が始まったことが分かること

(2) 培われる主な資質・能力

- ・歴史上の事象に関わる人物の働きや文化遺産などに関心をもち、意欲的に調べるとともに、我が国の歴史や伝統の大切さ、歴史を学ぶ意味を考えようとする態度
- ・歴史上の事象から問題を見出して追究し、人物の願いや働き、文化遺産の意味を考え、表現する力
- ・歴史上の事象についての確に調査したり、各種の基礎的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりする力
- ・自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きを理解する力

(3) 教材や学習対象の価値

本小単元では、平清盛や源頼朝、北条時宗らの人物の働きについて追究することを通して、武士による政治が始まったことを学習する。その価値は以下のとおりである。

本小単元では、2つの共通課題を設定し、段階的に追究することで、源頼朝が鎌倉に幕府を開き、武士が勢力をもつようになったことを理解していく。そこで、まず、武士の地位を高めた平清盛の活躍と、源平の戦いに勝利し鎌倉幕府を開いた源頼朝の活躍について調べる。このことで、天皇中心の中央集権体制を踏襲した平氏による政治から、朝廷の認可の基に武士による封建体制をつくり上げた鎌倉幕府による政治へと、政治体制が変化したことを考えることができる。次に、全国の武士を動員して元の攻撃を退けた北条時宗の活躍について調べる。このことで、鎌倉幕府の力が全国の武士に広がっていったことを考えることができる。これらのことを通して、平安後期～鎌倉時代における我が国の歴史への理解を基に、平清盛や源頼朝、北条時宗らの功績について考えることは、武士による政治の実現や存続に向けて努力した3人の働きについて理解を深めるとともに、歴史への興味・関心を高めることができる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、6年「日本の歴史－室町文化－」で、京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画について調べ、室町文化が生まれたことを考える学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、6年「日本の歴史－貴族の暮らしと日本風の文化－」で、藤原道長に代表される有力貴族の暮らしや貴族が力をもった理由、紫式部、清少納言らの活躍について調べ、貴族の暮らしの様子と日本風の文化が起こったことを考える学習に取り組んできた。この学習の中で、明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ・貴族の暮らしの様子と日本風の文化の起こりについて、藤原道長や紫式部、清少納言らの活躍などを意欲的に調べ、平安時代の我が国の歴史への興味・関心を高めてきた。このような子どもたちが、平氏による政治と鎌倉幕府による政治の違いについて、平清盛や源頼朝らの活躍などを意欲的に調べ、鎌倉時代の我が国の歴史への興味・関心を高められるように、平清盛と源頼朝についての資料や、平氏による政治と鎌倉幕府による政治とが行われた期間を示した年表を基に、疑問点や調べたいことを話し合う活動を設定する。
- ・藤原道長らの貴族が勢力をもった理由について、律令制による天皇中心の政治の仕組みとそれを利用した藤原氏の摂関政治とを関連付けて考えられるようになってきている。このような子どもたちが、武士を中心とした鎌倉幕府が140年間続いた理由について、平氏による政治との比較を基に、御恩と奉公の関係を重視した政治の仕組みと、朝廷の力から独立して政治をしたことを関連付けて考えられるように、調べたことを基に追究する観点同士の関わりを図に表しながら話し合う活動を設定する。
- ・藤原道長らの貴族の暮らしの様子や紫式部、清少納言らの活躍などについて収集した情報をまとめられるようになってきている。このような子どもたちが、平氏による政治と鎌倉幕府による政治の違いや平清盛、源頼朝らの活躍などについて収集した情報をまとめられるように、追究する観点ごとに収集した情報を対比して整理できる図を提示する。
- ・貴族の暮らしの様子や天皇との関係を利用して貴族が力をもったこと、日本風の文化が起こったことを理解してきている。このような子どもたちが、源頼朝が鎌倉に幕府を開き、武士が勢力をもつようになったことへの理解を深められるように、武士による政治が始まったことと平清盛、源頼朝、北条時宗の果たした役割の関連をまとめる人物ポスターを作る活動を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 鎌倉幕府が140年間続いた理由について予想し、追究する観点や方法を話し合うことを通して、問題の解決への見通しをもつ。
- 2 準備 平清盛と源頼朝の業績年表 京都・鎌倉・福原の位置関係を示した日本地図 短冊
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点（☆は研究上の手立て）
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 鎌倉幕府が140年間も続いた理由について考えるために、調べていくことをはっきりさせないといけないな。 <p>2 共通課題についての予想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 清盛と頼朝の政治に違いがあるのかな。 清盛は自分の娘を天皇の妃にしているのに、頼朝は娘を天皇の妃にしていないぞ。幕府が長く続いたことに関係するのだろうか。 娘だけでなく政治を行った場所からも天皇との関係が違うからと予想できるな。 確かに、清盛は自分の一族だけを大事にしたけど、頼朝は守護・地頭という仕事を作って周りの武士たちに与えているな。だから鎌倉幕府が140年間も続いたのかな。 <p>3 追究する観点や方法を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「征夷大將軍」や「守護・地頭」などは、新しい役職ができたということかな。 「天皇の力に頼らない」や「京都から遠い鎌倉」などから、天皇との関係と考えたのだな。それなら「一族で独占しない」や「頼朝への信頼が厚い」などは、周りの武士との関係が観点になるかな。 仕事の内容や、天皇や武士といった周りの人間との関係について調べるためには、清盛と頼朝の行ったことをそれぞれ調べていく必要があるな。 清盛と頼朝の行ったことを詳しく調べるためには、図書資料や歴史人物事典を使うとよさそうだな。 <p>4 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の時間は鎌倉幕府の仕事の内容を図書資料で調べていこう。 	<p>○鎌倉幕府が140年間続いた理由を予想して学習計画を立てるという本時の学習の見通しをもてるように、共通課題と本時の活動について問いかける。</p> <p>☆鎌倉幕府が140年間続いた理由についての予想をもてるように、平清盛と源頼朝の業績年表と、京都・鎌倉・福原の位置関係を示した日本地図を提示する。</p> <p>○予想をもてない子どもには、予想がもち易い天皇との関係の違いに着目できるように、平清盛と源頼朝の業績年表から分かる相違点を探そう助言する。</p> <p>☆予想を共有できるように、発表された予想をそれぞれキーワード化して、短冊に記述して掲示する。</p> <p>☆鎌倉幕府が140年間続いた理由についての予想を分類して捉えられるように、学級全体で短冊の仲間分けを考えるよう促す。</p> <p>☆追究する観点を考えられるように、仲間分けした短冊のまとめりに、予想の内容を包括する言葉を問いかける。</p> <p>☆観点に沿って追究する方法を考えられるように、共通課題の解決のために必要な情報やその収集の仕方を問いかける。</p> <div data-bbox="826 1574 1401 1839" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価項目 —</p> <p style="text-align: center;">鎌倉幕府が140年間続いた理由について、追究する観点や方法を記述したり発言したりしている。</p> <p style="text-align: center;"><学習プリント・発言（2）></p> </div> <p>○問題の解決への意欲を高められるように、次時に追究する観点や方法を明確にもてたことを賞賛する。</p>

指導と評価の計画（全8時間）

目標	源平の戦いや鎌倉幕府の始まり、元との戦いなどに関わる人物の働きについて考え、武士による政治が始まったことを理解する。			
評価規準	(1) 源平の戦いや鎌倉幕府の始まり、元との戦いなどに関わる人物の活躍に関心をもち、調べようとしている。 (2) 源平の戦いや鎌倉幕府の始まり、元との戦いなどに関わる人物の活躍から、問題や予想、学習計画を考えたり、それぞれの人物の働きを考えたりし、表現している。 (3) 源平の戦いや鎌倉幕府の始まり、元との戦いなどに関わる人物の活躍について、年表や文章資料などの基礎的資料を活用し必要な情報を読み取ったり、まとめたりしている。 (4) 源頼朝が鎌倉に幕府を開き、武士による政治が始まったことを理解している。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点（☆は研究上の手立て）	評価項目＜評価方法（観点）＞
課題をつかむ	1	○平安時代後期から鎌倉時代前期の武士に関わる資料から疑問点や調べたいことを考え、話し合う。 共通課題 なぜ、鎌倉幕府は140年間も続いたのだろう。	○平氏による政治に比べ、鎌倉幕府が長期間続いたことについて、疑問点や調べたいことが考えられるように、平清盛と源頼朝についての資料や、平氏による政治と鎌倉幕府による政治とが行われた期間を示した年表を提示する。	◇平清盛や源頼朝の活躍について関心をもち、平氏政権に比べ、鎌倉幕府が長期間続いたことについての疑問点や調べたいことを記述したり発言したりしている。＜学習プリント・発言（1）＞
	1	○共通課題に対する理由を予想し、学習計画を立てる。（本時） ＜調べる観点例＞ ・役職の内容 ・天皇との関係 ・周りの武士との関係	☆問題の解決への見通しをもつことができるように、鎌倉幕府が140年間続いた理由についての予想を共有し、追究する観点や方法を話し合う活動を設定する。	◇鎌倉幕府が140年間続いた理由について、追究する観点や方法を記述したり発言したりしている。＜学習プリント・発言（2）＞
追究する	2	○鎌倉幕府が140年間続いた理由について観点到に沿って調べたり、自分なりの考えをもったりする。	○多様な資料を活用して、平氏による政治と鎌倉幕府におけるそれぞれの仕事の内容や、天皇や周りの武士との関係などを調べられるように、資料コーナーを設置する。	◇平氏による政治と鎌倉幕府におけるそれぞれの仕事の内容や、天皇や周りの武士との関係などを読み取り、記述している。＜学習プリント（3）＞
	1	○調べたことを基に、鎌倉幕府が140年間続いた理由について話し合う。	☆鎌倉幕府が140年間続いた理由に対する自分の考えを明確にもてるように、他者との交流を基に、自分の考えを再考する活動を設定する。	◇天皇の力を利用して貴族的な政治を行った平氏による政治と比べ、鎌倉幕府には土地を仲立ちとした主従関係によって全国の武士をまとめる仕組みが整っていたことを記述したり発言したりしている。＜学習プリント・発言（4）＞
	1	○鎌倉時代後期の出来事についての資料から、疑問点や調べたいことを考え、話し合い、調べる。 共通課題 なぜ、鎌倉幕府は2度も元を追い払うことができたのだろう。 ＜調べる観点例＞ ・元との戦いの様子 ・周りの武士との関係	○鎌倉幕府が2度も元を追い払うことができたことについて、疑問点や調べたいことを考えられるように、鎌倉時代後期の様子が分かる年表や、元寇と北条時宗についての資料を提示する。	◇鎌倉幕府が兵力差の大きい元を2度も追い払うことができた理由について、追究する観点、方法を記述したり発言したりしている。＜学習プリント・発言（2）＞
1	○調べたことを基に、鎌倉幕府が2度も元を追い払うことができた理由や、元寇と鎌倉幕府滅亡との関係について話し合う。	☆元に対抗できた幕府と御家人の結束の強さについて自分の考えを明確にもてるように、調べたことを基に、それらの相互の関係を整理して板書する。	◇元の攻撃を退けた理由について、ご恩と奉公の関係と鎌倉幕府の力が全国の武士に広がっていたこととを関連付けて、記述したり発言したりしている。＜学習プリント・発言（2）＞	
まとめる	1	○平清盛、源頼朝、北条時宗の3人の功績をまとめる人物ポスターを作成する。	○武士による政治が始まったことと3人の人物の功績との関連が分かるキャッチコピーを考えることができるように、「武士の力の大きさ」を視点として提示する。	◇武士による政治とそれぞれの人物の働きとの関連について、ポスターに表現している。＜ポスター（4）＞